

助成事業実施報告書

団体名 はまどおり大学

代表者・役職名 氏名 菅波 香織

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

あえる食堂(こども食堂)を介したカウンセリングの実施

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

あえる食堂(こども食堂)を、市内のカフェに委託して開催しています。あえる食堂を通して、不登校のお子さん、不登校のお子さんを持つご家族、生きづらさを感じているお子さんや大人がいることがわかりましたので、その方達をカウンセリングにつなげ、安心できる場を増やしたいと考えています。カウンセラー、スクールカウンセラーによるカウンセリングを実施し、継続的なカウンセリングと、必要な方には支援機関につなげる活動を進めています。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

「結果」

実施回数 48 回。参加者 23 名。

「成果」

あえる食堂(こども食堂)と、それを介したカウンセリングを実施したことで、実施地域(いわき市常磐地区)のみならず、地域外(いわき市勿来地区、いわき市四ツ倉など)の行政(地区センター)からの相談が増えました。

具体的には、

- ・食べ物に困っている子どものいる家庭にお弁当を配達して欲しいという相談に対し、当団体の事業では配達が行っていないため、宅食配達や、弁当販売を行っている他事業所(内容により身元引受人)を紹介
 - ・子どもへの支援だけでなく、親への支援が無いかという相談には、関係機関を紹介
- など、いわき市内全域からの相談が届くようになり、関係機関との連携も広く行いました。

「社会的な変化」

個人だけでなく、行政(地区センター)にも当事業が周知され、困った時の相談先の一つとして認知されるようになりました。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

課題としては、有償ボランティアなど人材を確保するための予算が取りづらい状況が続いている点が挙げられます。

また、今後の展望としましては、2022 年度はコロナも影響し土日はカウンセリングを開催していませんでしたが、2023 年度は土日の開催を増やしていきたいと考えています。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

